



取締役会長 宮原 利弘



取締役頭取 山本 孝之

ごあいさつ

皆さま方には、平素より私ども佐賀共栄銀行をお引立ていただき、誠にありがとうございます。

さて、本年もここにディスクロージャー誌「佐賀共栄銀行の現況 2006」をお届けいたします。

本誌は、当行の経営方針や組織のほか、この1年間の施策とその成果、地域社会とのかかわり等につきまして、具体的に、わかりやすくご説明しています。ご高覧のうえ、当行の経営内容等について、より一層のご理解を賜れば幸いに存じます。

平成17年度決算は3期ぶりの黒字回復を果たすことができました。当年度は、不良債権問題が山を越し、不良債権処理額を大幅に減少させることができました。また、経営改善に向けた改革が、一つ一つ実を結び、本業の収益力を表すコア業務純益も増加しました。収益力は着実に向上しており、今後も安定した黒字決算を見込んでいます。また、経営の健全性の目安となる自己資本比率は8.36%と、安心してお取引いただける水準にあります。

当行では、平成17年度より第七次中期経営計画「創造的改革」（4ヵ年）をスタートさせました。新中期経営計画は、当初2年間を「改革期」の1st.Stage、続く2年間を「完成期」の2nd.Stageと位置付けています。平成18年度は1st.Stage「改革断行」の仕上げの年度として、収益管理・営業推進の改革を進めるとともに、組織及び内部管理の改革の完成をめざし、銀行の健全性の更なる向上を目指しています。また、お取引先企業の経営改善、事業再生の支援や利用者の皆さまの利便性向上など「地域密着型金融」の推進を通じて、地域経済の活性化と積極的な地域貢献を推進していくことで、目指す銀行像（長期ビジョン）「地域に信頼感と存在感のある銀行」の実現に向けて、役職員一同、より一層の努力を重ねてまいります所存でございます。

今後とも、皆さま方の旧に倍するご支援・ご愛顧を切にお願い申し上げます。

平成18年7月

取締役会長 宮原 利弘

取締役頭取 山本 孝之